

第 2 2 回 市民自治を考える懇話会 会議録要約版

- | | |
|------|--|
| ○日 時 | 平成 2 0 年 5 月 2 9 日 (木) 午後 7 時 ~ 9 時 |
| ○場 所 | 市役所南館 講堂 |
| ○出席者 | (委 員) 1 2 名
(事務局) 3 名
(サポートスタッフ) 3 名 |

会議内容

提言書の素案について

主な内容と意見

■事務局

前回の会議で、提言書の「はじめに」の部分を委員の中の 3 名の方を中心にまとめていただくということであったので、5 月の 1 2 日と 2 2 日に集まっていたき、文章を考えていただいた。

本日は、その内容を含め、提言書の形にしたものを作成した。

第 1 章は、(1)わたしたちのまち「大阪狭山」への思いと(2)市民自治を考える懇話会の話し合いの経過と思いという 2 つを今回、委員 3 名が中心になってとまとめていただいた部分である。2 章以降は、これまでに素案としてまとめた内容になっている。本日は、これらを踏まえてもう少し意見をいただけたらと考えている。

まず、「はじめに」の部分については、作成していただいた委員に内容を説明いただきたい。

- まず、たたき案を作成し、それをベースに 3 人で話し合いをした。内容は、読んでいただければ分かると思うが、前回の話しでもでていたが、狭山のよいところを文化的なところや自然など市民活動が盛んに行われている例を挙げながら書いてみた。

狭山は、住みやすいまちではあるけれども、色々な活動をする中で無関心な人が増えてきたという内容も書いた。

この懇話会の内容では、今までの皆さんの意見をまとめたものを書いた。できるだけわかりやすい言葉で書いたつもりである。

■事務局

補足すると、通常、表紙をめくると「はじめに」という簡単に要旨が書いてあるが、今回書いていただいた内容が、豊富であったため、敢えて第 1 章という構成にしている。今までの皆さんの意見が要約されているように思うが、意見や感想があればお願いしたい。

- 広範囲に書いていただき十分である。

■事務局

作成いただいたメンバーで補足するものがあれば、お願いしたい。

- 目次にあるように、各章のなかで、議会と議員の役割や行政の役割や行政運営の原則など行政に関することについては、「はじめに」にはあまり書いていないのが少し気になる。

それは、各章でしっかり書き込めばよいことであって、前文は、市民の立場から市民側のこと、特に「はじめに」の最後の方の「行政任せ、他人任せにせず、自分のことは自分でする、できないことは、皆で協力しながらする」という市民側が中心となることを書いたという形にはなっていると思う。だが、後は、皆で協力してもできないことは、行政が行うということが原案では入っていたが、省略してしまったので少し気になるところである。

- 少し、ソフトな印象を受けるが、基本的には、行政や市民の役割や責務、議会の役割など、狭山は、これから独自で行くのであれば、市民も辛抱しないといけないし、職員も議員も辛抱するところはしないといけないと思う。ポイントは3つか4つのように思う。

勿論、情報公開などできるだけ分かりやすいようにするというのは、今でも、そこそこ、取り組まれているように思う。

- 「はじめに」の部分に、狭山は合併をしないということを書けないか。
- 合併する、しないに拘らず、狭山をよいまちにしておこうということである。

■事務局

提言の中に合併の内容を入れるには、懇話会での話し合いの中での1つのテーマとしてあがり、方向性も見えているのであればよいが、そうでない場合は、難しいと思う。

- 狭山に生まれ育った人と引っ越してきた人とは違うような気がする。狭山に愛着を持っていることがよく分かる表現になっていると思う。
- 「はじめに」の部分は、少し偏っているような気がしている。狭山池の活動も防犯ステーションも一面である。大阪狭山市の内容を全て知っている訳ではないが、新興住宅と旧村に分けたときに、旧村にはもっと古い歴史があって、今、歴史を引きずってきた色々な問題点が介在している事が書かれていない。新しく引っ越してきた人やこのような活動を行っている人には、的を射ているかも知れないが、参画していない旧村の人も含めて、大阪狭山市の思いは、このようなものではないと思う。
- それは、4行目5行目に書かれていると思うが。
- 要するに目的である。この提言が自治基本条例に直結する提言であるのか、条例を制定する必要性を書くだけでよいのか意図が不明である。「はじめに」を作成する際に、どの様な考えで作られたのか教えていただきたい。
- 前回の議論のなかで、「はじめに」の前文より後の章の内容については、必然的に他市でもよく似た内容になる。前文にそれぞれの市の特徴を出しているということで、狭山の特徴を出すために、委員の内の3名で狭山の特徴についてまとめたと言う経緯がある。
- 「はじめに」は、狭山の思いを書くところであると考えている。
- 今回は、前文や「はじめに」ではなく第1章となっているが、それは少しおかしくないか。
- 前文は、もう少し短くてもよいのではないか。
- それでは、何かよい提案があれば。
- 第1章というのではなく、「はじめに」というタイトルではじめ、第1章は提案の中身を書いていく方がよいと思う。また、前文は、沢山書くのではなく、1頁以下で収めたほうがよいと思う。
- 長い短いの問題もあるが、「はじめに」の内容に第1章と付けるのは気になる。

(久先生)

話を少し戻すが、先程言われた、少し偏っているという話しは、昔から続いている村の自治のようなものが入っていないという意味でのことであるのか。

- 大阪狭山市の新しい地域に住んでいる者と旧村に住んでいる者とは、考え方が違うように思う。この「はじめに」には、新しいことだけが書かれていて、大阪狭山市への思いということだけを考えると歴史的な事が無いように思う。

(久先生)

なぜ、そのような確認をしたかという、そのことは、この一行を入れるだけでかなり印象が変わってくると思う。最初の3行の次に「狭山ではかねてより、地域、地域で自治が行われてきましたが」をいれて、あと「近年、新たな市民主体の活動も盛んになってきており」と続いていけばいいと思うが。

これだけ入れるだけで、印象が変わってくると思う。

- 先程の意見を反映して考えてみると、従来から住んでいる人と新しくきた人とがもう少し交流しあわないといけない。新しいかたちのものを作り上げる必要があるということを多少書いて、その上にすばらしい市を市民が協力して作っていくということを書けばよいと思う。

(久先生)

色々な問題は事実としてあるにせよ、この場所にその対象となる方がいない時に、余りマイナスイメージの事を書いても問題となるので、できれば前向きな話を付け加えたらよいと思う。

- 大阪狭山市のイメージを客観的に書いただけで、特に深く考えて原案を作ったわけではない。

(久先生)

最初の3行は、狭山の歴史や自然のことであるので、当然地元のことである。

- 歴史的なことで、狭山藩の話は、受継いできたわけでもないの、文章化はできていない。狭山の歴史で有名な狭山池と自然を絡めて3行を作った。
- 上の3行4行のところはこれでよいと思うが、例えば、だんじり祭りをやっている地区も多いので、そのような伝統のある祭り、狭山池まつりという新しい祭りが生まれてきたということを書けばよいと思う。
- 原案では、だんじり祭りの内容も入れてあったが、話し合いの中で削除してしまった。
- 狭山では、新しいものだけではなく、古い伝統的なものもあることを加えた方がよい。
- 3行目以降に、先程、先生に提案いただいた文章を付け加えて、「盛んになって」のところを「盛んになってきております」としてその後「例えば」として、2つぐらいの例示を書くというのはどうか。
- 市民活動というのは、もっと色々あると思うが、例示する中で、狭山池まつりは、市全体というイメージであるが、防犯ステーションは、市民活動の1つであるので例示としてはどうかと思うが、その代表として例示したということにすればよい。
- 防犯ステーションの取り組みは、全国的にも組織化されているが、狭山で初めての取り組みであったということで例示されたと思う。

(久先生)

他の市のことを見ている中で、この防犯ステーションの取り組みは、画期的なことであると思う。だから全国からも視察にこられる訳であるので、代表的なものであると思う。

- これが公表される時期が、半年先であるならば、小学校区単位で取り組む地域防犯ステーシ

ョンができるので、金剛駅と小学校単位での取り組みも追加して書けば、市全体のことになると思う。

■事務局

提言書の公表は、もう少し早いと思う。7月ぐらいに考えている。

(久先生)

しかし、金剛駅前のモデルがあったから、皆に広まって行ったと思う。そういう意味では、「特だし」しておいてもよいと思う。

- もう少し短くしたほうがよいと思う。

(久先生)

できるだけ替わりの案を出した方がよいと思う。事務局の方が大変であると思うので、短くするのであれば、このように短くするという案を出した方がよい。

一端書いた文章を修正するのは中々難しい。

■事務局

先程、意見をいただいた、章の件であるが、ある方がよいのか、ない方がよいのか。

- 特に拘らないが、普通、小説などでも、「はじめに」と言う部分があるので、「はじめに」と「おわりに」は、章はいらないと思う。

(久先生)

それは、章のタイトルだけの問題かもしれない。例えば、第1章の(1)も(2)も「思い」である。これが「提言書に向けての私たちの思い」ということにすれば、1章でいいのかもしれない。

- 言葉を少し変えた方がよいということである。
- もし、第1章とするならば、格調高く、目的のようなものを書くべきである。
- 自治基本条例本体ではないので、先生がおっしゃった、提言書に向けての私たちの思いという言い方でもいいと思う。

(久先生)

報告書であれば、最初は、目的という話しになる。これは提言であるので、趣旨は少し違うと思う。提言とは、我々が、市民に向かって、或いは行政に向かって色々思いを伝える訳であるので、一番最初に強い思いを書いているというのは、別におかしくはないと思う。

最初に目的が来れば、最後に結論がなければならないのかもしれない。今回の提言書では、そういうタイプでないかもしれない。

- 狭山池まつりの部分あたりに、だんじり祭りも加えたらどうか。
- 原案では、1ページ半ぐらいのボリュームがあった。その中から、ピックアップした形でまとめたため、だんじりなどの秋祭りはカットしている。
- 文章の長さではなく、ここで取り上げた項目などが大切であり、それを生かすように文章は変える事ができるので、項目を削除した方がよいのか、残した方がよいのかを考えないといけない。先程、先生にご提案いただいた文章に、今のだんじりの話を追加する事ができると思う。結構、若い方もだんじりに憧れている方も多いようである。こういうものが、まちの一つの原点になっていると思う。
- 「春の狭山池まつり」の次に「秋にはだんじり祭り」と続ければよいと思う。市内で、だん

じり祭りに参加している方も多いので、その部分を入れないといけなと思う。

- だんじり祭りも、市内の偏ったところで行われているので、今の案では、カットしたという理由にもなっている。

(久先生)

ここで、文章の提案を少しすると、先程、提案した「狭山ではかねてより、地域、地域で自治が行われてきましたが」に少し加えて、「自治が行われてきましたが」ではなく、「自治が行われ、だんじりを中心とした、強い絆を生み出してきました。これに加え、近年・・・」という案もあると思う。後は、また、3名の委員さんと事務局でまとめていただければよいと思う。

- 前回3名の委員にお願いしたので、折角作っていただいた案にとにかくは言えない。
- そうではなく、あくまでも、たたき案を作ったので、皆さんの意見を反映して、皆でまとめていかなければならない。
- だんじりを入れるのであるならば、文章のつなぎ方も変えないといけなと思う。
- 完璧な文章にしようと思うと、今すぐにはできないと思う。先生の提案や皆さんの意見を反映して、再度集まって修正した方がよいと思う。
- 私は、だんじりのない地域に住んでいるので、だんじりに対する思いは余りない。
- だんじりを曳きたいが、マンションに住んでいるということで断られたといういやな思い出を持っている方もおられる。
- だんじりだけ捉えると、だんじりは、神社があってそこに奉納する。狭山には、三都神社、狭山神社という歴史のある神社がある。その神社に対して、奉納するためにだんじりがあるということである。このような歴史のある神社が狭山にあるということは、私たち市民は誇るべきことである。そのような結びつきで、だんじり祭りが残っているという歴史・文化を大切にす市民であるということをいれた方がよいと思う。
- 祭りは、五穀豊穡を願うということである。祭りを行っているところだけの祈願ではなく、狭山全体のことを考えた祭りであると思うので、そのような内容も含めて書いてみる。

(久先生)

今、「三都神社、狭山神社の杜の緑」と言うことで、自然の部分に入っているのを村の中心であるというようにした方がよいと思う。

- 順序を後にして、景色の話は「ぶどう」までにして、神社の話は後ろに持ってきて、今のだんじり祭りの話しを入れる。

と言うのも、ニュータウンにお住まいの方は、だんじり祭りの詳しい内容が分からないので、そのようなことも触れておけば、理解をしていただけると思う。

■事務局

それでは、本日に色々いただいた意見を踏まえて、原案を考えていただいた方には、ご苦勞をかけるが、また委員の方3名で集まって取りまとめをするということをお願いしたい。

- 「はじめに」の第1章の部分はどうか、先生からご提案いただいた「思い」ということでよいと思うが。
- それでよいと思う。

- 「はじめに」を「思い」に変えるのであれば、その前にある、「最終まとめにあたって」は、文章を変えないといけませんが、「おわりに」にならないか。よって、第1章をはじめにして、「最終まとめにあたって」を「おわりに」に持っていくということによいと思うが。
確かに第2章のところとトーンが違っているが。

■事務局

「はじめに」の部分を章にするかどうかのこだわりはこちらには無いので、先生からのアドバイスなどにより第1章とすれば、「最終まとめにあたって」の部分が「はじめに」になると考えている。

取りあえず、第1章の「はじめに」は、修正するようにする。

また、「最終まとめにあたって」を「おわりに」にまわす提案については、皆さんのコメントや感想がでそった段階で考えればと思っている。

- 「はじめに」の(2)のところの3行目の「自然を残しながらどのように開発していくのか、希薄になった市民同士のつながりをどう修正するのか、」という内容について、例えば「開発」という言葉があるが、もう「開発」と言う言葉ではない時代であるように思う。もう、開発と言う言葉で言うものはなくなっている。むしろ狭山池や陶器山の自然をどの様に保存していくのかということの方が重要であると思う。それと、「希薄になってしまった市民同士のつながりが」という部分が非常に気になる。「希薄になってしまった」と言うのは、希薄になってしまったのではなくて、当たり前の姿である。むしろ、市民が全体的なレベルでもって共通のテーマを話し合う機会が少なくなっているという内容にした方がよいと思う。市民同士のつながりという我々の近辺を見渡してみると、近隣同士のつながりはあるが、共通のテーマに対する話し合いの機会がないという気がする。

■事務局

今、いただいた意見をできれば文章化していただけたらと思う。

- 狭山池や陶器山の自然をどの様にして保存していくのか。希薄になってしまったと言う部分が出てこないが、次のページの文章の「しかし、その半面、対話や情報交換する機会が少なく、横のつながりがそれ以上広がらない面が見られることも事実です」という部分があるので、要は、情報交換や、広域的な対話をする機会が少なく、横のつながりが広がらないというようなニュアンスをここに入れた方がよいと思う。後ろの方にも同じ事が書いてあるのでまとめられないか。
- 例えば、「交流の場が少なくなった市民同士のつながり」と言うのはどうか。
- 近所付き合いのことを圧縮して書いたつもりであるのだが。以前は、向こう三軒両隣の人のことは、知っていてもおかしくないのであるが、今は、そのようなつながりも薄くなっているということである。
- 今の部分は、見えてきた事象、今感じている事象が挙げられている。表現の問題であろうと思うが、「なってきたり」や「段々なってきたり」という言葉になると思う。先程、提案のあった、考え行動と言う言葉をいれて、文章の最後「方向性が少しずつ見えてきました。」ということになり、後は次の問題として行動の問題が書かれている。希薄と言う字面が大変気になると思われるが、事象としての挙げた方から問題はないかと思う。
- この部分は課題が書かれているところである。
- 限られたスペースの中で、全てを書き込むのは大変だと思う。
- 課題としてあげていると思うが、「今、希薄になっている市民同士のつながりをどう修正する

のか。しかし狭山池まつりのような市民が主体となっています。」と書いていて、また、しかし、と続いているので、何か、繰り返しているように思う。

- (2)の懇話会の話し合いの経過の思いと、各委員の感想や思いを合わせて、「おわりに」の部分に移すのはどうか。

(久先生)

ここでは、ポイントだけ押さえて、簡潔に書いていただいているので、読みやすくよいと思う。思いが詰まりすぎると、重くなる危険性がある。最初にさらっと読んでいただいて、2章以降でしっかり読んでもらい、最後は、もう一回、思いで念を押すという流れの方が読みやすいと思う。

- (2)を「おわりに」にまわすのは、少しおかしいと思うが。
- 2ページの最初の部分の「しかし、その半面、～事実です。」の部分は重なっているので、削除してはどうか。

(久先生)

これを抜いてしまうと、対話と交流ができる場の説明がおろそかになるので、先程の意見のように、1ページの終りから「活動については盛んになってきていますが、」その後に「さらに、もっとすそ野を広げるために、行政を含めて「対話と交流ができる場」のような仕組みを作ってみてはどうでしょうか。」となり、その後に、「しかし、その半面～」の文章を前向きな表現にして、「そうすれば、対話や情報交換をする機会も増え、横のつながりももっとひろがっていくでしょう。」ということにすればつながっていくと思うが。

- ネガティブな表現より、ポジティブな表現の方が読みやすい。
- そういう意味では、「希薄になって」と言う部分もネガティブな表現である。
- それは、課題であるからそのままでもよいと思う。
- 「希薄になってしまった」という過去形ではなく、「なっている」と進行形の方がよいと思う。

■事務局

最終の取りまとめは、委員3名でお願いしたいと考えている。特に、人数の限定はしないので、参加いただきたい。

本日は、「はじめに」の部分で時間をとってしまったが、残りの2章から10章の部分については、修正を加えながら提案させていただいたが、若干、追加した部分もあるので、その部分を伝える。

まず9ページの第6章の行政の役割と責務のところ、一番下の文章を追加した。本日の冒頭でもこのような意見があったと思うが、職員の職務遂行にあたっての法令及び条例等を遵守するよう努めなければならないという内容を追加した。

第8章の最後、12ページになるが、少し先走った内容になるかと思うが、地域協議会のような組織作りのテーマを投げかけさせてもらい、話し合いをしていただいたということもあるので、まちづくりを進める組織作りの必要性を追加した。

戻るが第4章、7ページの市民の役割と責務等の(1)市民の役割の項目の二つ目に自治会等の活動に参加するという項目を追加した。これは、ずっとテーマとして投げかけられていたところであるため、追加してみた。

以上が追加した項目である。

最後に、「おわりに」の部分であるが、先程も委員から話しがあったように、委員の意見や感想を改めてお願いしたい。

- 第3章、第4章のところで、市民という言葉が多く書かれているが、市民が何かをしないと
いけないのか。
- そうである。これからは市民が積極的にしないといけない。
- 個人的な意見であるが、先程の12ページのところの、最後の部分で、「まちづくりを行う組
織をつくる必要があると思います。」とあるが、「考えます。」の方がよいと思う。

■事務局

それでは、2章以降の意見や、「おわりに」の部分の感想や意見については、次回の6月12日
までをお願いしたい。「はじめに」の部分は、また3名の委員でお願いしたい。

- 今日のはじめて、この提言書案を見ていたが、全般的な流れが理解できないし、文章が重複し
ているところもあるので、少し考えをまとめて述べたい。

■事務局

個々の意見をそれぞれで言うのではなく、代表でとりまとめをしていただきたい。あまり事務
局が介入するのもどうかと思う。やり方を考えないといけないと考えている。

(久先生)

また、個別で集まっていただく機会があるのであれば、日時を設定しておいてそこで調整し
た方がよいと思う。

■事務局

それでは、取りまとめていただける方の調整は、この後で行うとして、本日はこれまでとする。
次回の予定は、6月12日(木)に開催する。

以上